

臨床外科

4

2015 VOL.70 NO.4

特集

膵・消化管神経内分泌腫瘍 (GEP-NET)のアップデート

GEP-NETの腫瘍概念の変遷と診療ガイドライン

GEP-NETの画像診断のコツと生検の意義

GEP-NETの病理分類

P-NETの診断と外科治療

インスリノーマ / ガストリノーマ / その他の機能性腫瘍
非機能性腫瘍

GE-NETの治療方針

遺伝性腫瘍症候群に合併するGEP-NET

GEP-NETの薬物療法の現状と今後の展望

GEP-NETの集学的治療における外科治療

FOCUS

大腸外科領域におけるロボット手術の現況

福外科病院

外来と手術場のスタッフ



当院は、日本最大の半島といわれる紀伊半島の和歌山県北部で和歌山市の南西部に位置する和歌浦にあり、JR紀勢本線紀三井寺駅から西へ徒歩10分程度のところです。病院の窓からは海や山が一望できる景勝地で、国指定の名勝でもあります。

和歌浦はもともと、若の浦と呼ばれていました。聖務天皇が行幸の折に、お供していた山部赤人が「若の浦に潮満ち来れば潟をなみ、葦辺をさして鶴（たつ）鳴き渡る」と万葉集の巻6の919番歌に詠んでいることでも有名です。

医療法人 福慈会 福外科病院は1971年、和歌山赤十字病院（現・日本赤十字社和歌山医療センター）の外科副部長であった父、福幸吉（岡山大学医学部卒、第一外科学講座）により54床の外科病院として創設されました。開設時は年間700件以上の一般、消化器外科手術を施行しており、外来診察や検査を制限しないと手術ができないほど繁忙であったそうです。当時、小学2年生であった私、福昭人（和歌山県立医科大学および大学院医学研究科外科学講座卒、第2外科）が、平成10年から父とともに臨床を中心として経営もするplaying managerを行っています。また、実姉（東京女子医科大学卒、神戸大学内科学講座）も消化器内科のスタッフとして神戸から定期的に臨床を手伝ってくれるアットホームな病院で、平成25年度の1日平均外来患者数は80名、病床稼働率は88%、平均在院日数16日でした。さらに、自慢のスタッフである薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、看護師長、副師長、事務職員などが緩和治療や栄養管理（NST）、さらには病院経営にも自主的に力を注いでくれています。

平成26年10月現在、標榜科は内科、外科、消化器内科、消化器外科、肛門外科、内分泌内科、代謝内科、循環器内科、放射線科、麻酔科の10科で、一般病棟10対1の入院基本料を取得し、今も54床で運営しており、職員数は常勤・非常勤を合

わせて78名です。「誠心誠意」の基本理念のもとに消化器疾患の外科手術や内視鏡検査・治療を得意としながらも、外来診察は内科疾患を中心に全人的に対応した総合診療を手掛け、地域医療に尽力し、患者様が医療に何を期待し、どういう治療を希望されているのか常に患者様の目線にたち、声に耳を傾ける病院を目指しています。

一方、医療の質向上のため、日本大腸肛門病学会認定専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本外科学会認定関連施設、日本消化器外科学会認定関連施設など多くの認定を受けております。さらに、平成25年4月には日本医療機能評価機構（Ver.6）の更新、平成26年8月にはISO 9001（2008）を再認証取得し、仕事の効率化による生産性の向上と職員の意識改革を促すよう職員教育にも力を入れています。

平成25年度の手術総件数は238例で、消化器がん手術38例、鼠径ヘルニアや肛門疾患手術86例でした。平成26年度の手術総数は10月上旬現在190例で、最近では年間230～270例で推移しており、消化器手術はほぼ内視鏡下手術を行うようになっています。また、消化器がんの化学療法を積極的に行っており、皮下埋め込み型静脈カテーテルも年間20例施行しました。消化器内視鏡検査は、平成25年度は1,390件（治療289件）でした。平成26年度は、10月上旬現在で1,384件と若干増加傾向にあります。今年MRI（1.5T）も更新し、消化器以外の疾患に対する検査精度も向上しています。

和歌山県は人口減少と高齢化が近畿地方のなかでも特に著しいですが、ひとつひとつ問題をクリアすることで地域医療に貢献でき、信頼される病院、そして地域住民の方々から「地域の誇りである」と言われる病院として未来永劫活動していきたいと考えています。

（福 昭人・記）

〒641-0021 和歌山県和歌山市和歌浦東3-5-31